

第2章

デザインの進め方

1. 道路のデザインの進め方

(1) 道路のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

● 地形の尊重と自然への影響の軽減

- ・地形の改変や過度な樹林伐採を極力抑えます。また、法面の出現等による景観の阻害を軽減するため、地形を尊重し、線形や構造を選択します。

● 道路の性格・役割に応じたデザイン

- ・幅員構成の変更や現道の拡幅等を行う場合は、道路ネットワークの適切な役割分担（歩行者に特化する道路、歩行者を優先する道路、通過交通を受け持つバイパス路線等）を考慮し、道路空間の再配分や施設のデザインを行います。

● 沿道景観に応じたデザイン

- ・沿道の都市環境や自然環境に調和するよう空間構造や施設をデザインします。広告物や大型店舗等による雑然とした沿道景観が形成されやすい区間では、それらの影響を緩和するよう、緑地帯や歩道幅員等に配慮します。

● 景観資源の活用

- ・ランドマークとなる景観資源があるときは、その資源への眺望を阻害しないようにするとともに、良好な眺望が得られるよう、線形や構造を検討します。
- ・良好なシークエンス景観を形成する要素を抽出し、その景観の変化が効果的に展開するよう線形や構造を検討します。

② 道路関連施設等のデザインの基本事項

● 法面や擁壁

- ・法面や擁壁が生じる場合は、周辺の地形になじむように勾配や高さを調整します。また、緑化や自然素材の活用等により、周辺の自然になじむよう配慮します。

● 舗装(車道・歩道)

- ・走行性や歩行性、メンテナンス性への配慮にあわせて、周辺環境や道路の性格にふさわしい素材・色彩・表情とします。また、雨水の浸透性や保水性にも配慮して素材を選定します。
- ・カラー舗装や路面表示は、安全性などの機能を確保しながら、必要以上に目立つことがないものとし、国のガイドラインを踏まえて表示方法を選定します。(p104 参照)

● 街路樹等

- ・植栽計画は、道路の位置づけや、管理に関する市民参加の状況等を考慮して検討します。
- ・植栽の種類や配置は、地域の自然環境や沿道の土地利用に調和したものとし、季節感の創出にも配慮します。また、同じ道路でも、周辺の環境や眺めの状況によって、樹種や配置を適切に調整します。

● 防護柵等

- ・場所ごとに設置の必要性を検討し、設置する場合はシンプルな形状を基本とします。
- ・色彩は、周辺環境や他の道路附属物に調和させ、個別施設のデザイン基準 (p78~79 参照) に基づくものとします。

● 街灯等

- ・器具や支柱は、シンプルな形状を基本とします。
- ・色彩は、周辺環境や他の道路附属物と調和させ、個別施設のデザイン基準 (p75~76 参照) に基づくものとします。

● 標識等

- ・案内サインは、個別施設のデザイン基準 (p85~86 参照) に示した「サインデザインマニュアル」(2005, 豊橋市) に基づくものとします。
- ・複数のものが近接する場合は、できるだけ集約化します。

● 横断歩道橋

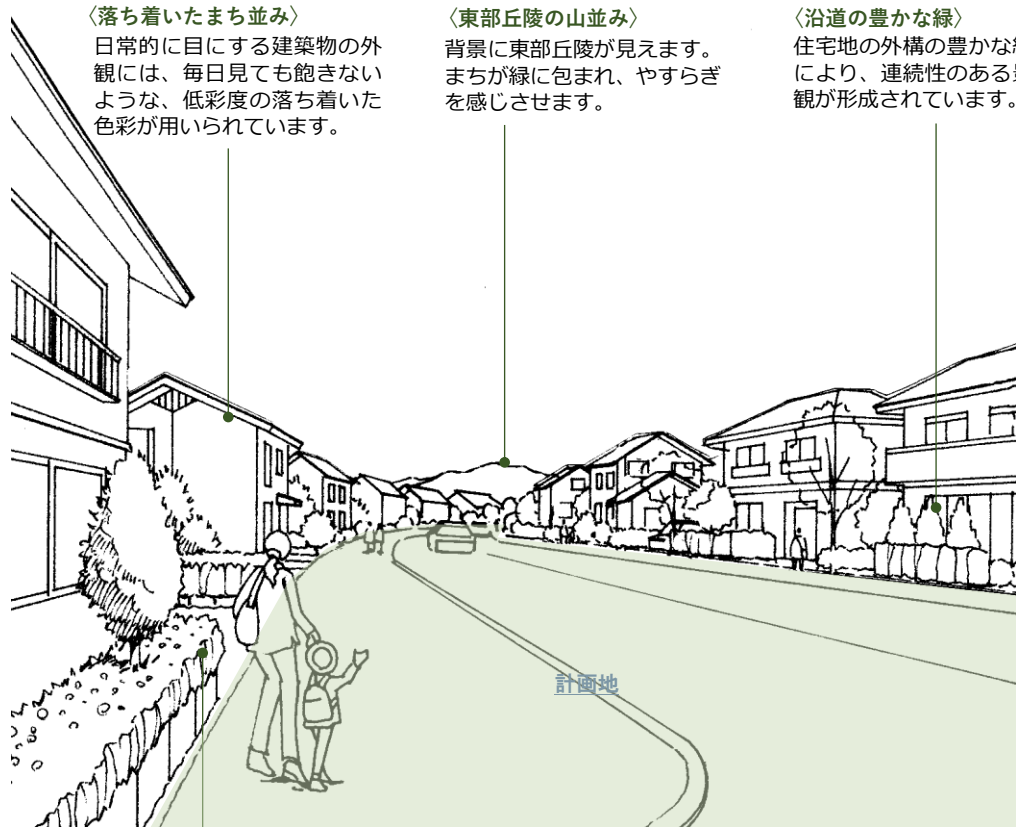
- ・形状は、圧迫感や威圧感がないものとし、周辺環境に調和したものとし、
- ・色彩は、個別施設のデザイン基準 (p69~71 参照) に基づくものとします。

(2) 道路のデザインの進め方の例（道路改良の例）

■ 構想・計画段階

① 景観の特徴を読み取る

道路周辺はどのような景観の特徴がある場所なのでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながら景観の特徴を読み取ります。



〈落ち着いたまち並み〉

日常的に目にする建築物の外観には、毎日見ても飽きないような、低彩度の落ち着いた色彩が用いられています。

〈東部丘陵の山並み〉

背景に東部丘陵が見えます。まちが緑に包まれ、やすらぎを感じさせます。

〈沿道の豊かな緑〉

住宅地の外構の豊かな緑により、連続性のある景観が形成されています。

〈地域の憩いの場〉

地域の人たちの憩いの場である緑豊かな公園が隣接してあります。

② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。

道路の性格・役割 歩行者や自転車を優先する生活道路

市民の参加 木々や草花の管理に住民参加が可能

景観の特徴

〈沿道の豊かな緑〉

〈東部丘陵の山並み〉

〈落ち着いたまち並み〉

〈地域の憩いの場〉

デザインのコンセプト

身近に緑の潤いを感じる

穏やかな道をつくる。

■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

身近に緑の潤いを感じる穏やかな道をつくる。

デザイン方針

1. 緑の潤いを感じられる道にする。
2. 東部丘陵への眺めが美しい道にする。
3. 安心して歩けるゆとりと調和のある歩道をつくる。
4. 住民参加で花や四季を楽しめる歩道にする。

② 細部をデザインする

デザイン方針1～4に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

東部丘陵への眺めが特に良い場所では、樹木の配置や高さを調整し、良好な眺望が得られるようにします。

東部丘陵へと視線を導く連続性のある街路樹を配置します。

歩道と車道の境界部に樹木を配置することで、潤いを創出します。



歩道はユニバーサルデザインに配慮するとともに、浸透性のある歩きやすい素材とし、周辺の住環境に調和した色彩とします。

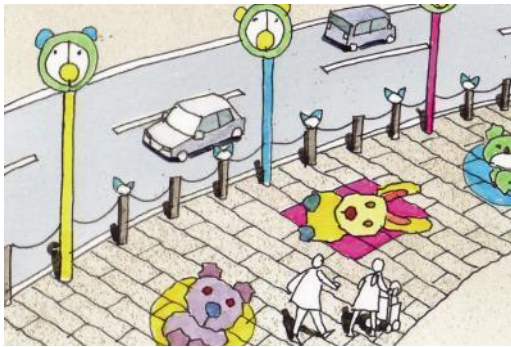
周辺の住民が花を楽しめ育てられるよう、植栽帯を設置します。

街灯と防護柵は、シンプルなデザインとし、周辺環境に調和する落ち着いた色彩とします。

自転車通行空間の表示は、周辺環境との調和に配慮し、必要以上に目立たないようにします。

◆ NG 例

■ 道路に過剰な装飾を施した例



過剰な装飾は、飽きられやすく、人々が歩く空間としても目障りになります。また、デザインに必然性がなかったり、稚拙であったりすると多くの人々に受け入れられません。

■ 道路擁壁が寂しいと絵を描いた例



絵は自然やまち並みに調和しづらく、好き嫌いが分かれるため皆が見る空間にふさわしくありません。また、年月の経過でみすぼらしくなり、交通安全上も望ましくありません。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ 涼しい舗装が、眺めを心地よくする



夏の日差しは路面を熱くします。保水性のある舗装材は、水の蒸散により熱さを和らげます。歩く環境が快適になれば、見える景色も心地よくなるでしょう。

■ みんなで育む道をつくる



きれいな花が彩る道や生き生きとした並木道など、みんなで育む緑の道は、暮らしの環境を豊かにし、まちの誇りになるでしょう。

■ 思い出になる道をつくる



四季の変化がある道やきれいな夕日が見える道など、いつもの道の景観が、美しいものであるならば、心に残る風景となり、まちへの愛着が高まるでしょう。

■ 道の歴史と文化を活かす



歴史のある道には、長い間に蓄積された文化や資源が眠っています。それらを活かしながら道のデザインを行うと、趣のある景観が生まれるでしょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

〈樹木の配置や向きについて〉

- ・ 街路樹を植栽する場合は、通行の安全性に配慮しながら、歩行者やドライバー等から美しい眺めが得られるよう、配置や向きを調整します。
- ・ 配置や向きは、樹形や枝ぶりを観察した上で、将来の成長や剪定も想定し、丁寧に調整します。

〈街灯の配置等について〉

- ・ 周辺に景観資源がある場合は、その眺めに影響のないよう配置を調整します。
- ・ 近隣に住宅等がある場合は、住環境等に影響のないよう灯具の角度等を調整します。

● 周辺の自然環境への配慮

- ・ 地形や自然の改変を伴う場合は、可能な範囲で自然の復元に努めます。

■ 維持管理段階

● 設計意図に基づく適切な維持管理

〈舗装・道路附属物の管理について〉

- ・ インターロッキング等の舗装材料や防護柵・街灯等の道路附属物を取り替えたり塗装したりする場合は、改めて周辺環境を観察し、当初の設計意図も考慮しながら、より望ましい景観となるよう素材や色彩等を検討します。

〈樹木の剪定について〉

- ・ 街路樹の成長により、景観資源への良好な眺望が損なわれないよう、あらかじめ配慮が必要な場所や樹木を特定しておき、適切に剪定等を行います。
- ・ 剪定は、樹木の生育や周辺への影響、維持管理の負担等に配慮しながら、できるだけ美しい樹形となるよう配慮します。

● 市民等の関わりを考える

- ・ 緑の管理や道路空間の活用について、市民の参加状況等を考慮しながら、その時々に合わせて適切に対応します。



2. 橋梁のデザインの進め方

(1) 橋梁のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

● 橋梁自体の美しさ考えたデザイン

- ・ 橋梁や高架橋は、機能性や構造の必然性を重視しながら、過度な装飾を避けたシンプルなデザインにすることを基本とします。特にランドマークとなる場合は、地域の良好な景観を創出するよう、橋梁自体を周辺景観に調和した美しいデザインとし、ディテールについても丁寧に検討し、質が高く、長く大切にされるデザインとします。

● 地形の尊重と自然への影響の軽減

- ・ 自然の地形や植生を大切に、橋台や橋脚周りは、自然の地形や植生にできるだけ馴染ませます。

● 暮らしの環境に配慮したデザイン

- ・ 人々の暮らしに近い環境では、橋の側面をスリムに見せる工夫を行うなど、圧迫感の低減やまち並みのスケールとの調和に配慮したデザインとします。また、配水管や遮音壁などの附属物についても、周辺環境や橋梁本体と調和するよう丁寧にデザインします。

② 橋梁関連施設等のデザインの基本事項

● 橋台・橋脚・橋桁

- ・ 橋全体のプロポーションが整うよう、上部工と下部工を一体的にデザインします。
- ・ 橋台や橋脚は、周辺環境になじむように構造体の仕上げや表情等に配慮します。
- ・ 桁の色彩は、個別施設のデザイン基準（p72～74 参照）に基づくものとします。

● 高欄・防護柵

- ・ 橋梁全体の見え方に影響するため、形状や材質などについて、橋梁本体と一体的にデザインします。また、接続する道路の防護柵との調和にも配慮します。
- ・ 公園内の橋梁や歩行者の視点場となる橋梁では、人にやさしいデザインとし、ディテールや触り心地にも配慮します。
- ・ 色彩は、個別施設のデザイン基準（p72～74 参照）に基づくものとします。

● 舗装(車道・歩道)

- ・ 走行性や歩行性に配慮するとともに、周辺環境や接続する道路の舗装と調和した素材・色彩・表情とします。

● 街灯等

- ・ 周辺環境や橋梁本体と調和したデザインとし、色彩は高欄等と調和したものとします。

(2) 橋梁のデザインの進め方の例（橋梁の架け替えの例）

■ 構想・計画段階

① 景観の特徴を読み取る

橋梁周辺はどのような景観の特徴がある場所なのでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながらか景観の特徴を読み取ります。

〈緑豊かなまち並み〉

家々の敷地には木々や草花が植えられ、緑豊かなまち並みになっています。

〈東部丘陵の眺め〉

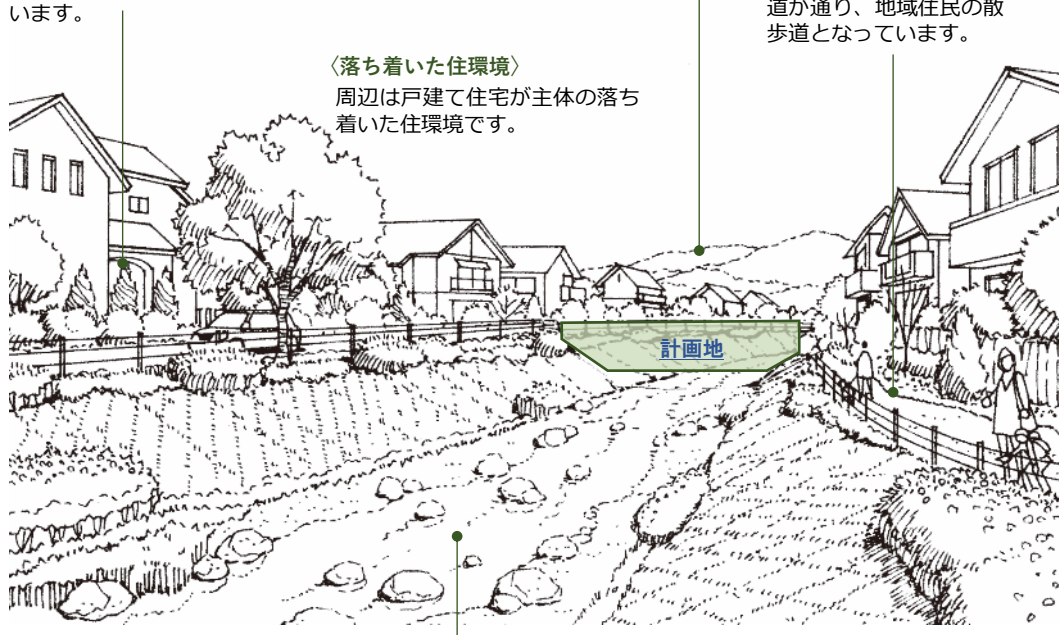
背景に東部丘陵の美しい山並みが見えます。

〈散歩道〉

川沿いには、ヒューマンスケールの歩行者優先の道が通り、地域住民の散歩道となっています。

〈落ち着いた住環境〉

周辺は戸建て住宅が主体の落ち着いた住環境です。



〈潤いある水辺〉

身近に自然を感じることで、潤いある水辺の空間があります。

② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。

橋梁の性格・役割 地域住民の生活道路に接続する橋
周辺住民が散歩道や通学路として利用

景観の特徴

- 〈東部丘陵の眺め〉
- 〈落ち着いた住環境〉
- 〈緑豊かなまち並み〉
- 〈散歩道〉
- 〈潤いある水辺〉

デザインのコンセプト

緑に包まれた住環境に調和し、
住民の暮らしを豊かにする空間をつくる。

■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

緑に包まれた住環境に調和し、住民の暮らしを豊かにする空間をつくる。

デザイン方針

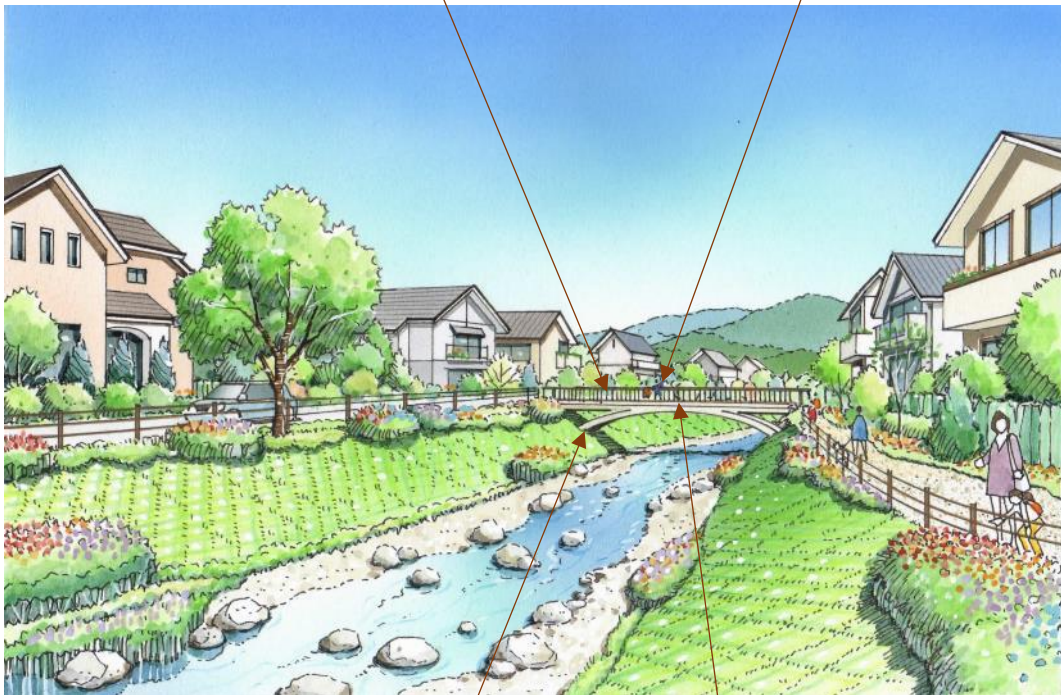
1. 山並みを眺める視点場としてデザインする。
2. 豊かな住環境を創出する美しいデザインとする。
3. 周辺の緑に調和し、散歩道の連続性にも配慮したデザインとする。

② 細部をデザインする

デザイン方針1～3に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

高欄は見通しのきくシンプルなデザインとし、自然や周辺の防護柵に調和するダークブラウン色とします。

橋上は美しい山並みが心地よく眺められる場になるよう、人にやさしいデザインとします。高欄は触り心地の良いデザインとし、歩道部の路面は穏やかな色彩とします。

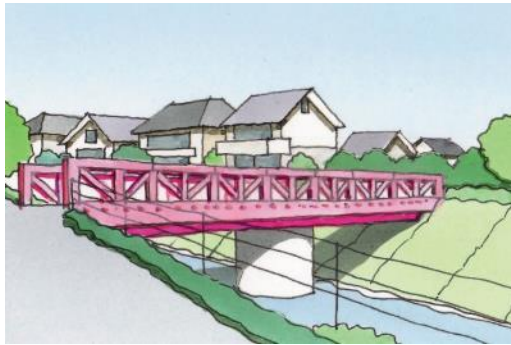


橋台や橋脚は、コンクリートの露出を最小限に抑え、表面が周辺環境になじむように配慮します。

橋梁本体は暮らしの空間を豊かにし、見通しを妨げないシンプルでやさしい形状とします。色彩は自然になじむベージュ色とします。

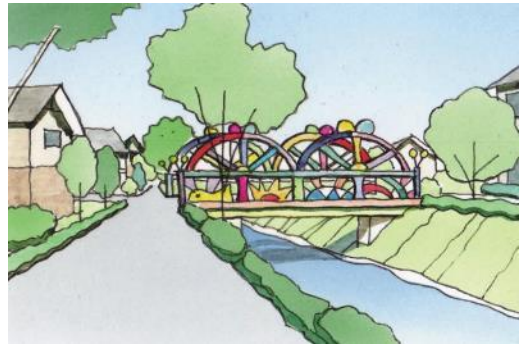
◆ NG例

■ 橋梁を派手な色彩で塗装した例



穏やかな住環境や自然環境のなかで、突出した色彩は、景観を混乱させてしまいます。また、水辺の自然の美しさや微妙な変化を台無しにしてしまいます。

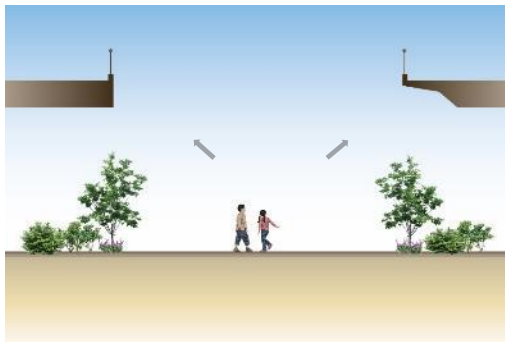
■ 橋梁に奇抜なデザインを施した例



奇抜なデザインは飽きられやすく、景観を混乱させます。また、水辺の自然の美しさを損ねてしまいます。長く愛される、シンプルで美しいデザインが望まれます。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ 橋の側面をスリムに見せる



橋桁から床版を張り出すと、橋の側面がスリムに見え、重たい橋の存在が、軽やかになります。ヒューマンスケールな空間づくりに有効です。

■ アーチで印象的な景観をつくる



眺めに物足りなさを感じる時、直線的な橋ではなく、アーチ橋を架けてみましょう。優雅なカーブは、美しい景観を生み出すでしょう。

■ 橋を眺める場をつくる



橋を眺める対象として見てみましょう。ちょっと違った角度から見ると、面白い景観があるかもしれません。そんな場所には、眺める場所をつくりましょう。

■ 橋の歴史を引き継ぐ



橋は昔から、人と文化の交流に大きな役割を果たしてきました。橋を架けかえる時、そうした歴史を振り返り、記憶を引き継ぐデザインを考えてみましょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

- ・ 桁や高欄の色彩を決める場合は、現地に大版の色見本を複数並べて比較検討し、周辺環境との調和を確認した上で決定します。

● 周辺の自然環境への配慮

- ・ 工事のために自然の地形や植生の改変がある場合は、可能な範囲で、改変した箇所の復元に努めます。

■ 維持管理段階

● 設計意図に基づく適切な維持管理

- ・ 桁の塗装や高欄の取り替えを行う場合は、改めて周辺環境を観察し、当初の設計意図も考慮しながら、より望ましい景観となるよう色彩等を検討します。
- ・ 損傷が見受けられる箇所の補修、補強や防錆性確保のための定期的な塗装など、定期的に点検、調査、補修などを行います。



3. 河川・水路のデザインの進め方

(1) 河川・水路のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

- **自然本来の姿を尊重したデザイン**
 - ・ 自然の営みがつくりだす多様で変化のある姿を尊重し、自然豊かな景観づくりに努めます。
- **人の関わりを大切にしたデザイン**
 - ・ 長い年月をかけてつくられてきた治水や利水の仕組みなど、人が川とともに作りあげてきた歴史と文化の環境に配慮します。
 - ・ 水辺の自然に親しむことができ、また、美しい眺めが得られる、心地よい空間づくりに努めます。
- **生態系に配慮したデザイン**
 - ・ 多様な生物の生息・生育環境の保全・再生に努め、周辺の自然環境に調和したデザインとします。

② 河川・水路関連施設等のデザインの基本事項

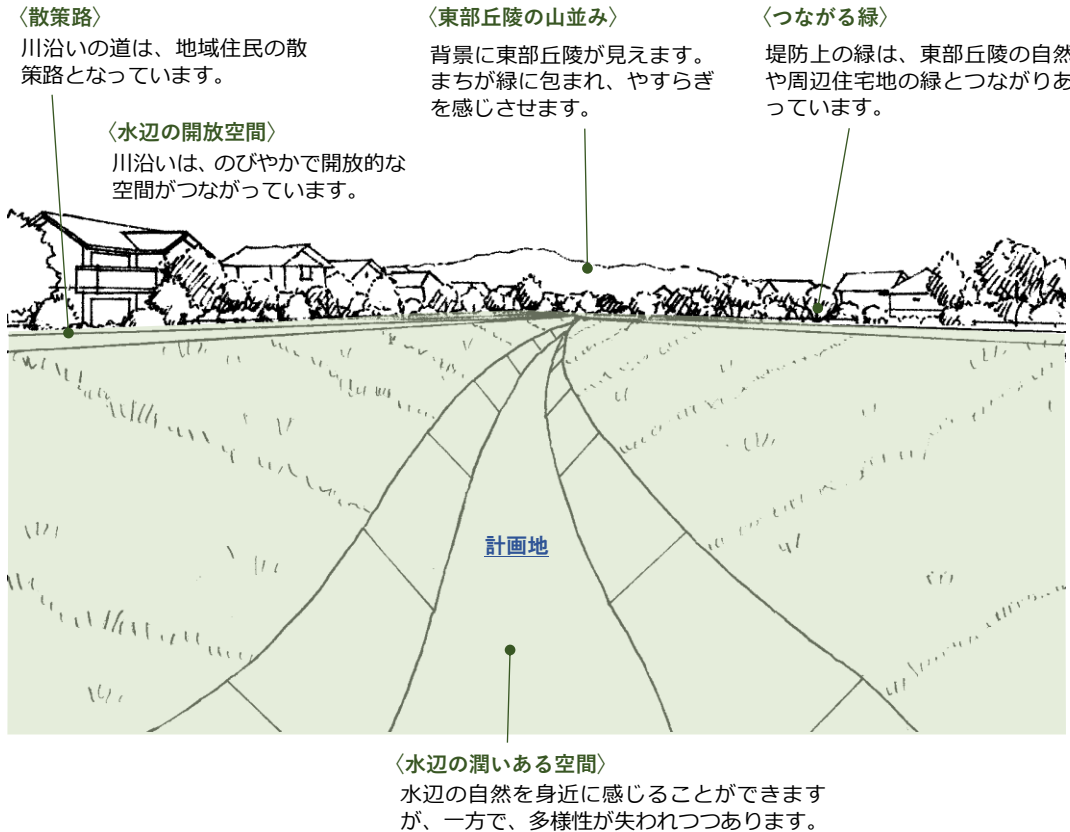
- **堤防周辺**
 - 〈植栽〉
 - ・ 都市における水と緑のネットワークを考慮し、在来種を活用するなど、生態系に配慮した緑化を行います。
 - ・ 良好な眺めが得られるよう、周辺の眺めを意識して木々の配置を考えると同時に、季節の変化が感じられるように配慮します。
 - 〈防護柵等〉
 - ・ 場所ごとに設置に必要性を検討し、設置する場合はシンプルな形状を基本とします。
 - ・ 色彩は、周辺環境や周辺道路の防護柵等と調和させ、個別施設のデザイン基準(p78~79参照)に基づくものとします。
 - 〈街灯等〉
 - ・ 器具や支柱は、シンプルな形状を基本とします。
 - ・ 色彩は、周辺環境や防護柵等と調和したものとし、個別施設のデザイン基準(p75~77参照)に基づくものとします。
- **護岸**
 - ・ 治水機能を確保しつつ、生態系や親水性に配慮した形態や素材とします。コンクリートを用いる場合は、自然になじむように表面の仕上げなどを工夫します。
- **高水敷**
 - 〈通路舗装等〉
 - ・ 高水敷は緑化を基本とし、舗装を行う場合は、自然に調和する素材や色彩とします。
 - 〈階段等〉
 - ・ 水辺に近づく施設として、安全性に配慮した形態にするとともに、自然に調和した素材や色彩とします。コンクリートを用いる場合は、自然になじむよう表面の仕上げを工夫します。
- **附帯施設等**
 - ・ 樋門や堰などの施設は、威圧感や圧迫感を抑え、シンプルなデザインとします。
 - ・ 色彩は青色を避け、自然や周辺の施設に調和する穏やかな色とします。
 - ・ サインの設置は必要最小限とし、設置する場合は、眺めを遮らない配置や高さ、形状とします。また、情報は必要最小限とし、自然に調和する色彩とします。

(2) 河川・水路のデザインの進め方の例（河川改修の例）

■ 構想・計画段階

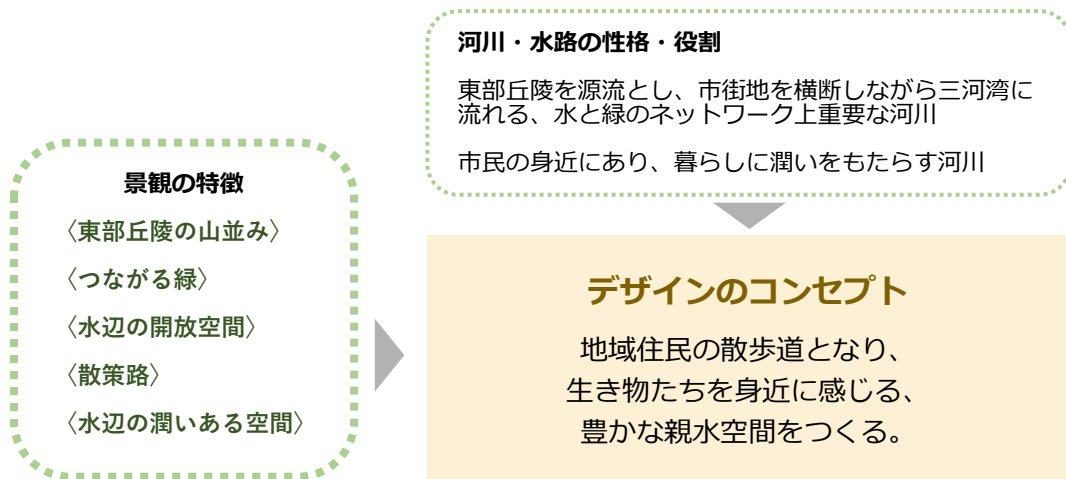
① 景観の特徴を読み取る

河川・水路周辺はどのような景観の特徴がある場所なのでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながらか景観の特徴を読み取ります。



② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。



■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

地域住民の散歩道となり、生き物たちを身近に感じる、豊かな親水空間をつくる。

デザイン方針

1. 既存樹の活用や護岸の緑化により、うるおいある空間を創出する。
2. 高水敷に散策路を設け、美しい眺めが得られる空間をつくる。
3. 自生種の活用などにより、多様な生物が生息できる環境をつくる。
4. 自然が引き立つよう、構造物は自然に溶け込むデザインとする。

② 細部をデザインする

デザイン方針1～4に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

防護柵は見透しのきくシンプルなデザインとし、自然や周辺の防護柵に調和するダークブラウン色とします。

既存の樹木を保全し、東部丘陵や周辺の住宅地と緑のつながりをもたせます。

高水敷には、ゆったりと歩ける散策路を設けます。仕上げは自然になじむ土系の舗装とします。

街灯はシンプルで落ち着いたデザインとし、木々や防護柵に調和するダークブラウン色とします。



散策路沿いに、四季の変化を感じられる植栽をします。

護岸は、自生種による緑化護岸とし、生態系に配慮しながらうるおいある空間を創出します。

水際は自然石や水生植物を用いて自然な水際線とし、自然の変化に委ねながら多様な生物を育むようにします。

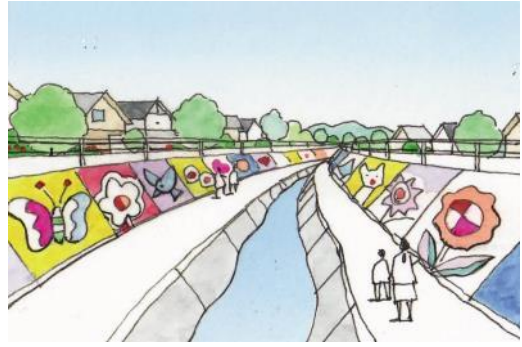
◆ NG 例

■ 河川の遊歩道に派手な色彩を施した例



桜の花は、ほのかな淡い色合いです。また、自然の花は、鮮やかな色のものでも、一時に咲く小さなものです。人工的で派手な色彩は、そうした自然の美しさを台無しにしてしまいます。

■ 護岸に即物的なイラストを描いた例



河川では、本来、水の流れや水辺の自然が美しく見えることが大切です。護岸や柵に絵を描くのではなく、自然が引き立つようにすることが大切です。絵は劣化し、景観を損ねる要因にもなります。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ 既存樹を活かし印象的な景観をつくる



高水敷や堤防にある既存樹を活かすことで、印象的な景観を生み出すことができます。

■ 木陰のある居心地の良い場をつくる



河畔の木々を選びながら環境づくりを行うことで、木陰の下でくつろげる居心地の良い空間ができるでしょう。

■ 河畔に心地よい散歩道をつくる



河畔の自然や眺めを活かしながら、心地よい散歩道をつくることで、人々の暮らしは健康的で豊かになるでしょう。

■ 生き生きとした水辺の景観をつくる



生き物たちの暮らしが見え、四季の変化が感じられる水辺は、心を豊かにしてくれるでしょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

〈樹木の配置や向きについて〉

- ・ 堤防沿いに植栽を配置する場合は、歩行者から美しい景観が眺められるよう、配置や向きを調整します。
- ・ 配置や向きは、樹形や枝ぶりを観察した上で、将来の成長や剪定も想定し、丁寧に調整します。

〈景石や飛び石等の配置について〉

- ・ 景石や飛び石等の野面（のずら）石を設置する場合は、石を置く向きや大きさなど、より自然な姿に見えるよう、現場にて様々な角度から確認しながら調整します。

■ 維持管理段階

● 設計意図に基づく適切な維持管理

〈防護柵等の管理について〉

- ・ 防護柵や街灯、附帯施設等を取り替えたり塗装したりする場合は、改めて周辺環境を観察し、当初の設計意図も考慮しながら、より望ましい景観となるよう素材や色彩等を検討します。

〈樹木の剪定について〉

- ・ 沿川の樹木の成長により、景観資源への良好な眺望が損なわれないよう、あらかじめ配慮が必要な場所や樹木を特定しておき、適切に剪定等を行います。
- ・ 剪定は、樹木の生育や周辺への影響、維持管理の負担等に配慮しながら、できるだけ美しい樹形となるよう配慮します。

● 自然環境に配慮した維持管理

- ・ 成長が早い外来植物等は、在来植物を駆逐することがあることから、水辺の良好な生態系を維持するために、定期的な調査を行い、適切に管理します。



4. 公園・緑地のデザインの進め方

(1) 公園・緑地のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

● 緑のネットワークの創出

- 公園や緑地は、市街地から自然地域まで様々な場所に整備されます。緑の景観のつながりや、生物の移動・多様性といった視点を考慮し、相互に補完し合いながら、良好な緑のネットワークが形成されるようにデザインします。

● 役割に応じた魅力ある空間の創出

- 公園・緑地には、近隣住民を対象とした公園やスポーツ施設を伴う総合公園など、様々な種類のものがあります。それぞれの役割に応じた景観配慮を行い、魅力ある空間をデザインします。

● 豊かな生態系を育む

- 公園・緑地は、地域の自然環境を保全・育成するために重要な場所です。それぞれの立地を踏まえ、地域の植生や生物に配慮した緑化等を行い、豊かな生態系を育みます。

② 公園・緑地関連施設等のデザインの基本事項

● 地形・園路

- 地形は、自然地においては自然の地形を活かし、都市部においては適度に変化をもたせ、心地よい空間をつくります。
- 園路は、地形や眺めに配慮して配置し、自然になじむ素材や色彩とします。また、雨水の浸透性や保水性にも配慮して、素材を選定します。

● 植栽

- 水と緑のネットワークを考慮し、在来種を活用するなど、生態系に配慮した緑化を行います。
- 良好な眺めが得られるよう、周辺の眺めを意識して木々の配置を考えるとともに、季節の変化が感じられるように樹種等を選択します。
- 維持管理に配慮しながら、高木や中木、低木、地被類、草花などを組み合わせ、緑視率の高い立体感のある植栽に努めます。
- 計画地に既存樹木等がある場合は、それらを活かした整備に努めます。
- 古木や大木を大切にするとともに、大きな木を育むように努めます。

● 公園内施設

〈建築物・サイン等〉

- 建築物は、公園・緑地の特性にあわせるとともに、地域に調和したデザインとします。
- 東屋やベンチ等の休憩施設は、良好な眺めが得られる場所に配置し、心地よく休息できるよう丁寧にデザインします。
- サインは、公園・緑地の特性にあわせた外形や素材とし、表示面も丁寧にデザインします。

〈遊具等〉

- 遊具は、華美なデザインは避け、周辺の景観から突出しない色彩とします。
- 遊具の周辺には、木陰やベンチをつくるなど、子どもを見守る人たちが快適に過ごせるように配慮します。

〈照明等〉

- 公園・緑地の特性にあわせて、ふさわしい照明計画を行います。夜間利用の多い公園では、街灯以外に足元照明や木々のライトアップを行うなど、魅力ある夜景づくりに配慮します。
- 器具や支柱は、公園・緑地の特性にあわせてデザインします。色彩は、個別施設のデザイン基準（p75～77 参照）に基づくものとします。

〈フェンス等〉

- フェンスは植栽で対応できない場合に設置するものとし、シンプルな形状を基本とします。
- 色彩は、個別施設のデザイン基準（p80～81 参照）に基づくものとします。

(2) 公園・緑地のデザインの進め方の例（公園の改修の例）

■ 構想・計画段階

① 景観の特徴を読み取る

公園周辺はどのような景観の特徴がある場所なのでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながらか景観の特徴を読み取ります。

〈大きな木〉

既存の大きな木が心地よい緑陰をつくりだしています。

〈東部丘陵の眺め〉

東部丘陵の美しい山並みが見え、やすらぎを感じます。

〈季節を感じる木々〉

公園の外周に花木や紅葉する樹木などがあります。



② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。

公園の性格・役割 主に近隣の住民が利用する公園
散歩や遊びなど多様な世代の憩いの場

景観の特徴

〈東部丘陵の眺め〉
〈大きな木〉
〈季節を感じる木々〉
〈緑豊かな住宅地〉

デザインのコンセプト

ふるさとも感じながら、
多様な世代がゆったりと時を過ごせる
憩いの空間をつくる。

■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

ふるさとも感じながら、多様な世代がゆったりと時を過ごせる憩いの空間をつくる。

デザイン方針

1. 東部丘陵が心地よく眺められる場をデザインする。
2. 既存の木々を保存しながら、周辺とつながりをもった潤いある空間をつくる。
3. 個々の施設と空間は、自然に調和し、心地よく感じられるようデザインする
4. 生態系に配慮しながら、身近な自然に触れあえる環境をつくる。

② 細部をデザインする

デザイン方針1～4に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

緑に包まれた空間に遊具を配置します。色彩は周辺環境から突出しないようにします。

大きな木を保存し、地域のシンボルとなるよう育みます。

住民が花を楽しみ育てられるよう、花壇を設けます。

東部丘陵の眺めを活かし、ふるさとも感じるやすらぎのある空間を創出します。

既存の木々を活かしながら、園内の植栽を行い、緑のつながりをもたせます。



自然の土の地面とし、子供たちが身近な自然に触れあえるようにします。

四季の移ろいを感じられる自生種を植栽します。

園路はユニバーサルデザインに配慮するとともに、雨水の浸透性のある素材とし、自然に調和する色彩とします。

大きな木の位置を意識しながら、山が最も美しく見える場所にベンチを配置します。園内の木々や施設は、ここからの眺めを引き立てるよう配置します。

ゆったりとくつろぎ遊べる広場空間を設けます。

ベンチは心地よく座れる形状とし、座面や背もたれは木とします。

木陰のあるくつろぎのスペースをつくります。

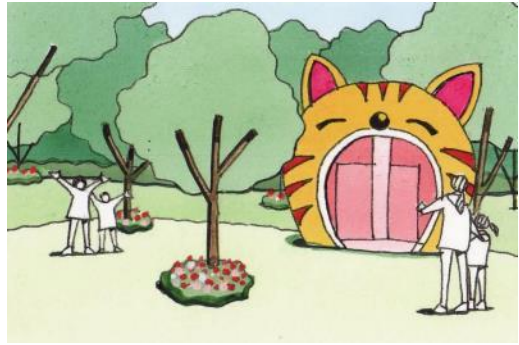
◆ NG 例

■ 園路に派手な色彩を施した例



公園では木々や草花などの自然の美しさが主役です。園路は、そうした美しさが引き立つよう、背景となる落ち着いた色彩や素材にすることが大切です。

■ 公衆トイレに安易なデザインを施した例



子供たちが喜ぶだろうなどと安易なデザインを行うと、一部のみにしか受け入れられない施設になってしまいます。周辺環境との調和や必然性を考えて、多くの人々に長く愛されるデザインが望まれます。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ こんもりと植える



緑や草花をこんもりと植えると、緑視率が増し、魅力的な空間ができるでしょう。

緑を植える場の、土の盛り方を考えてみましょう。

■ 心地よい居場所をつくる



眺めのよい木陰などを探し、座り心地の良い、木のベンチを置いてみましょう。

心地よい場所にあるくつろげるベンチは、暮らしのひと時を豊かにするでしょう。

■ やわらかな起伏をつくる



やわらかな起伏は、美しい空間を生み出し、アクティブな遊び場にもなるでしょう。

■ 大きく育つ木を植える



枝葉がのびのびと伸ばせる場所に、大きく育つ木を植えましょう。

大きな木はコミュニティを育み、世代を超えて地域の宝になるでしょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

〈樹木の配置や向きについて〉

- ・ 樹木を植栽する場合は、ベンチや園路から美しい眺めが得られるよう、配置や向きを調整します。
- ・ 配置や向きは、樹形や枝ぶりを観察した上で、将来の成長や剪定も想定し、丁寧に調整します。

〈遊具等と緑の配置について〉

- ・ 遊具やベンチ等と植栽を近接して配置する場合は、樹木の生長を想定して、相互の配置を調整します。

〈土の起伏について〉

- ・ 地面や花壇等に起伏を設ける場合は、起伏のラインが美しく見えるよう、勾配や向きを調整します。

■ 維持管理段階

● 設計意図に基づく適切な維持管理

〈園路・公園施設等について〉

- ・ 園路や公園内施設等の改修や塗り替えを行う場合は、改めて周辺環境を観察し、当初の設計意図も考慮しながら、より望ましい景観となるようデザインを検討します。

〈樹木の剪定について〉

- ・ 樹木の成長により、景観資源への良好な眺望が損なわれないよう、あらかじめ配慮が必要な場所や樹木を特定しておき、適切に剪定等を行います。
- ・ 剪定は、樹木の生育や周辺への影響、維持管理の負担等に配慮しながら、できるだけ美しい樹形となるよう配慮します。

● 季節感に配慮した維持管理

- ・ 花が咲く草本類を植栽する場合は、多年草も活用し、維持管理の負担の軽減に配慮します。

● 市民等の関わりを考える

- ・ 緑の管理や公園・緑地の空間の活用について、市民の参加状況等を考慮しながら、その時々に合わせて適切に対応します。



5. 面的開発等*のデザインの進め方

※面的開発等とは、土地区画整理事業、市街地再開発事業、工業用地造成事業、土地改良事業等を言い、都市計画法第4条第12項に規定する開発行為を含む。

(1) 面的開発等のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

● 地形の尊重と自然への影響の軽減

- ・ 地形の改変や過度な樹林伐採を極力抑えます。また、法面の出現等による景観の阻害を軽減するため、道路の線形や敷地の配置等を工夫し、必要最小限の造成にします。

● 周辺景観となじませるデザイン

- ・ 敷地の形状を周辺の地形にあわせたり、敷地周囲や計画地の外周部に緑地帯を設けたりするなど、周辺の自然景観や都市景観となじませます。

● 景観資源や眺めを大切にしたいデザイン

- ・ 良好な景観資源が事業地内にあるときは、資源をできるだけ保全するとともに、それらを活かしたデザインをします。
- ・ 眺望の対象となる景観資源があるときは、その資源への眺望が良好に得られるよう、道路の線形や公園等の配置をデザインします。

② 面的開発等関連施設等のデザインの基本事項

● 造成・基盤施設等

〈造成等〉

- ・ 長大な法面や擁壁が生じないよう、必要最小限の造成とします。
- ・ 擁壁を設ける場合は、できるだけ規模を小さく抑え、周辺環境に配慮した配置、規模、工法とします。
- ・ 造成法面の法肩部は、丸みをつける（ラウンディング）ことで、浸食防止や植生定着を促進するとともに、周辺の地形になじませます。

〈基盤施設等〉

- ・ 事業地全体のデザインの調和を図りながら、区域や路線ごとに街路樹や歩道舗装に変化を持たせるなど、魅力ある景観づくりに配慮します。
- ・ 電線電柱類は、可能であれば地中化します。
- ・ 調整池を設ける場合は、調整池内の修景や多目的利用、周囲の緑化等に配慮します。

● 植栽

〈外周部等植栽〉

- ・ 計画地の周辺に既存樹林や丘陵地がある場合は、その植生と調和する外周部の植栽を行います。
- ・ 外周部や敷地内の植栽は、在来種による植栽に努めます。
- ・ 植栽は、季節の移ろいを感じさせる花や実のなる樹種や紅葉するものなどを選定するよう努めます。

〈法面等緑化〉

- ・ 法面保護の地被類の植栽とともに、緩勾配法面や法肩付近への植栽等を行い、周辺の樹林や農地とのつながりに配慮します。
- ・ 擁壁等が発生する場合は、前面への植栽や表面を緑化するなど、周辺環境に調和するよう配慮します。

● 敷地内施設等
〈建築物等〉

- ・ 面的整備後の建築行為が、事業の目的に沿って良好に整備され、良好な景観形成が図られるよう、必要に応じて地区計画の制度等を活用しながら誘導します。

〈その他施設等〉

- ・ 電線類は、主要道路や敷地入口付近からの引き込みは避け、目立たない場所等から引き込むようにし、電柱や引き込み柱、電線類が目立たないように配慮します。

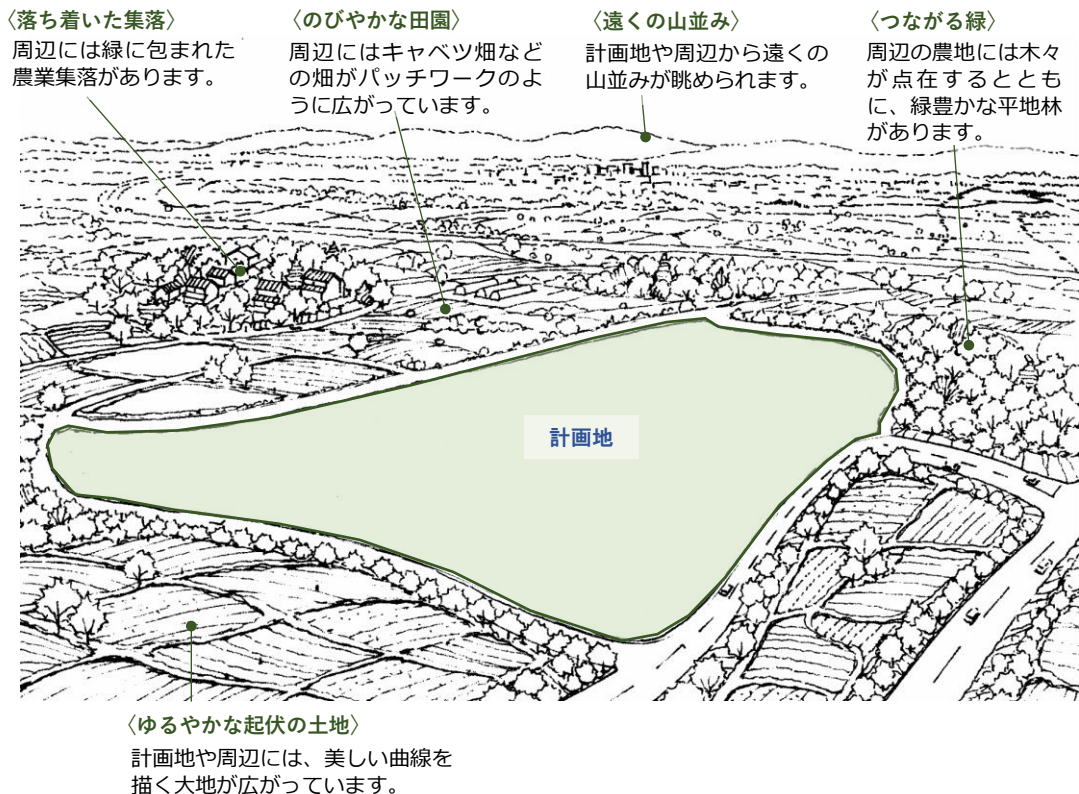


(2) 面的開発等のデザインの進め方の例（工業団地造成の例）

■ 構想・計画段階

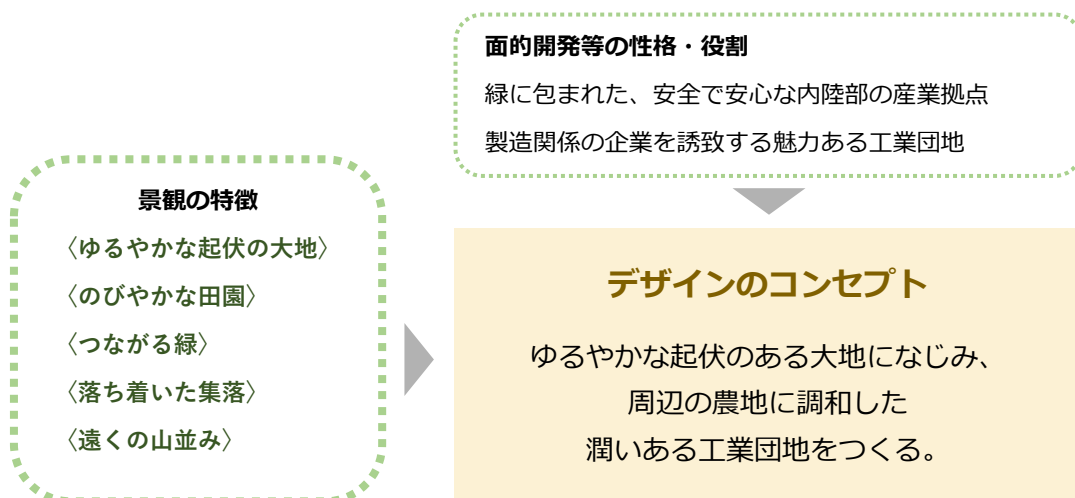
① 景観の特徴を読み取る

面的開発等の周辺はどのような景観の特徴がある場所なののでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながらか景観の特徴を読み取ります。



② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。



■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

ゆるやかな起伏のある大地になじみ、周辺の農地に調和した潤いある工業団地をつくる。

デザイン方針

1. ゆるやかな起伏を尊重して造成する。
2. のびやかな田園景観と落ち着いた集落の景観を保全する。
3. 周辺の緑とのつながりをもたせながら、緑に包まれた環境をつくる。

② 細部をデザインする

デザイン方針1～3に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

集落側には広い緩衝緑地帯を設け、落ち着いた集落の景観を保全します。

造成後の建築行為が、周辺景観に調和するよう誘導します。

造成地内や周辺の道路から遠くの山並みが眺められるよう配慮します。

造成地の外周を緑化し、周辺の緑と緩やかにつなげます。

生態系や景観上重要な樹林は、造成を行わず保全します。



緑は、生態系や周辺環境との調和に配慮し、自生種を植栽します。

自然の地形を尊重し、ゆるやかな起伏にあわせて造成します。

高低差は、法面による処理とし、地形になじませます。また、法面は緑化を行い、周辺の自然や農地に調和させます。

道路は地形に沿って整備します。

各敷地は、地形に沿った区画割とします。また、敷地周囲には緑地帯を設け、建築物が見えにくいようにします。

敷地内の舗装は、雨水の浸透性にも配慮して素材を選定します。

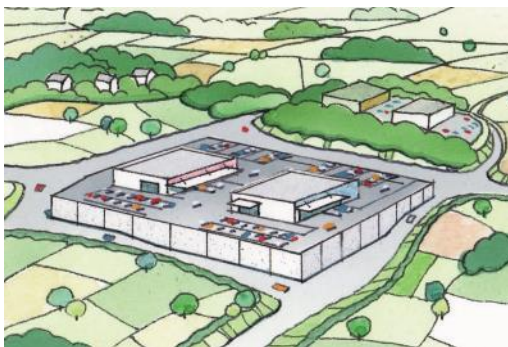
◆ NG 例

■ 斜面緑地を無視して造成した例



斜面緑地は、都市の骨格となる大切な景観資源です。緑のつながりや斜面の分断は、良好な眺めを大きく損ねてしまいます。

■ 地形を無視して直線的な開発を行った例



自然の起伏のある地域では、直線的な開発は、人工的で異質に見えます。やわらかなラインで、地形になじませる工夫が必要です。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ 1本の木で印象的な景観をつくる



土地改良（圃場整備）などの際に、既存の木や樹林を活かすことで、美しく印象的な景観が生み出せます。

■ ふるさとの資源や記憶を引き継ぐ



住み慣れた場所の景観は、住民にとって心のより所です。区画整理などで新しいまちをつくる時、ふるさとの資源や記憶を引き継ぎましょう。

■ フレキシブルな余白の空間をつくる



市街地整備の際に、自由に使えるゆとりの空間を設けましょう。人々の活動が芽生え、賑わいの景観が生まれ、新たな文化も育まれるでしょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

〈樹木の配置や向きについて〉

- ・ 外周部に植栽を配置する場合は、敷地の外から美しい眺めが得られるよう、配置や向きを調整します。
- ・ 配置や向きは、樹形や枝ぶりを観察した上で、将来の成長や剪定も想定し、丁寧に調整します。

〈表土について〉

- ・ 造成工事を行う際に、現地の表土を一時保管し、造成後の植栽地の客土として活用することで、在来種による緑化が促進されるように努めます。

● 周辺の自然環境への配慮

- ・ 地形や自然の改変を伴う場合は、可能な範囲で自然の復元に努めます。

■ 維持管理段階

● 分譲後の適切な施設整備と維持管理

- ・ 工業団地を取得した企業は、造成の設計意図やエリアの特性に配慮して、建築物の建築や緑化等を行い、その後は、適切な維持管理をします。
(建築物に関する景観デザインの進め方は、別冊の「景観計画ガイドライン」を参考)
- ・ 緑については、周辺環境との調和を保つ上で特に重要なため、植栽した樹木を育成するとともに、枯損木の植え替えを行うなど、定期的な確認を行いながら、継続的に管理します。

6. 公共建築物のデザインの進め方

(1) 公共建築物のデザインの基本事項

① デザイン全般の基本事項

● 地域ごとの景観に調和した、長く愛されるデザイン

- ・ 公共建築物は、施設の立地や用途などに応じて、地域の景観に調和するよう丁寧にデザインするとともに、年月が経過しても飽きのこない、長く愛されるデザインとします。

● 周辺環境と調和する敷地のデザイン

- ・ 周辺環境が田園や自然の場合は、敷地まわりの緑化が大変重要です。また、都市部では、敷地内の緑化のあり方でまち並みの魅力が大きく変わります。周辺環境と調和し、地域の魅力が高まるよう敷地の空間をデザインします。

② 公共建築物関連施設等のデザインの基本事項

● 敷地

- ・ 敷地の選定は、建築物の規模や用途を考慮した上で、周辺環境に不調和とならない場所を選びます。
- ・ 自然の地形の改変はできるだけ避け、高低差がある場合は法面による処理を基本とします。

● 建築物・工作物

- ・ 建築物・工作物の配置や形態・意匠等は、地域の成り立ちや周辺環境に調和したものとし、別冊の「景観計画ガイドライン」に沿ってデザインします。

● 植栽

- ・ 敷地内の緑化は、周辺環境に調和したものとし、別冊の「景観計画ガイドライン」に沿ってデザインします。
- ・ 都市部における水と緑のネットワークを考慮し、在来種を活用するなど、生態系にも配慮した緑化を行います。
- ・ 敷地の内外から良好な眺めが得られるよう、周辺の眺めを意識して、木々の配置を考えると同時に、季節の変化が感じられるようにします。
- ・ 維持管理に配慮しながら、壁面や屋上の緑化を検討し、緑視率の高い、立体感のある植栽に努めます。
- ・ 計画地に既存樹木がある場合は、それらを活かすように配慮します。
- ・ 古木や大木を大切にするとともに、大きな木を育むように努めます。

● その他

- ・ フェンスや防球ネットの色彩は、個別施設のデザイン基準（p80～81 参照）に基づくものとします。
- ・ 照明灯や電線の引込柱の色彩は、個別施設のデザイン基準（P75～77 参照）を参考に配慮します。

(2) 公共建築物のデザインの進め方の例 (小学校の新築の例)

■ 構想・計画段階

① 景観の特徴を読み取る

公共建築物の周辺はどのような景観の特徴がある場所なのでしょうか？地域の成り立ちを調べ、周辺を見渡しながらか景観の特徴を読み取ります。

〈勾配屋根〉

集落の家々は勾配屋根がほとんどで、背景の山並みと調和しています。

〈落ち着いた集落〉

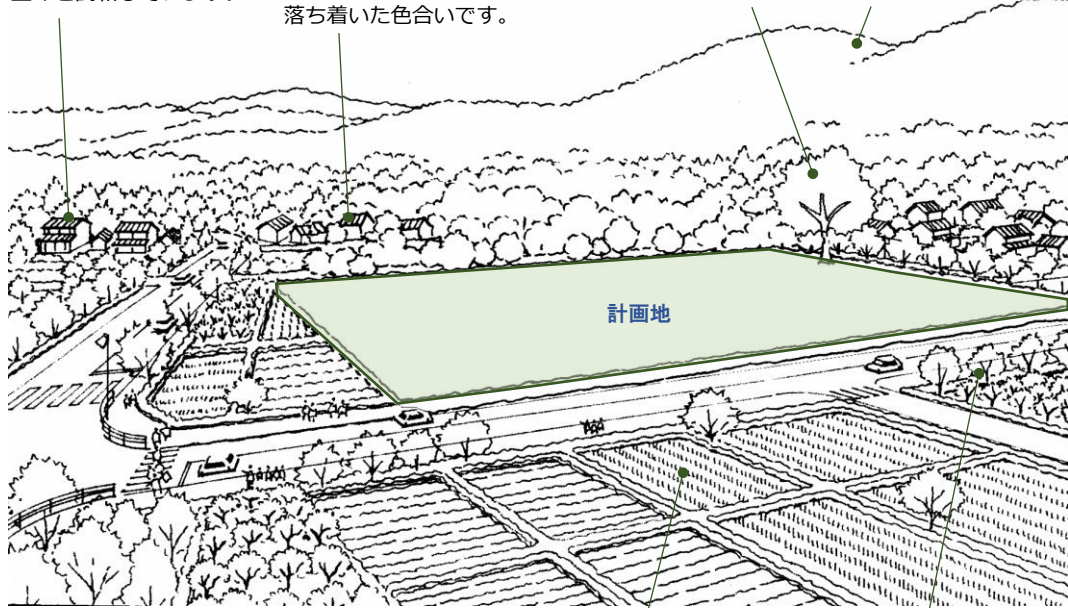
周辺には生垣や屋敷林に包まれた集落があります。家々の屋根や外壁は落ち着いた色合いです。

〈大きな木〉

敷地には大きな木があり、心地よい緑陰をつくりだしています。

〈東部丘陵の山並み〉

背後には東部丘陵の山並みがあり、やすらぎを感じます。



〈のどかな田園〉

周辺にはかき畑や水田などの田園が広がり、のどかな雰囲気があります。

〈季節を感じる木々〉

敷地周辺には、紅葉する木々があります。

② デザインのコンセプトを考える

①で読み取った景観の特徴を尊重し、その良さを活かすようにデザインのコンセプトを考えます。

景観の特徴

- 〈東部丘陵の山並み〉
- 〈落ち着いた集落〉
- 〈のどかな田園〉
- 〈季節を感じる木々〉
- 〈勾配屋根〉
- 〈大きな木〉

公共建築物の性格・役割 周辺の子どもたちが通う小学校
地域コミュニティの核となる施設

デザインのコンセプト

のどかな里山に調和した、
ぬくもりある学びの場をつくる。

■ 設計段階

① デザインのコンセプトを踏まえ、デザイン方針を考える

デザインコンセプトを踏まえて、デザイン方針を考え、細部のデザインを検討する準備をします。

デザインのコンセプト

のどかな里山に調和した、ぬくもりある学びの場をつくる。

デザイン方針

1. 東部丘陵の山並みや里山の集落に調和した、落ち着いた建物をつくる。
2. 里山集落のつくりに合わせて、緑に包まれた校庭をつくる。
3. 地域の人々に大切にされ、世代を超えて共有される思い出の場をつくる。

② 細部をデザインする

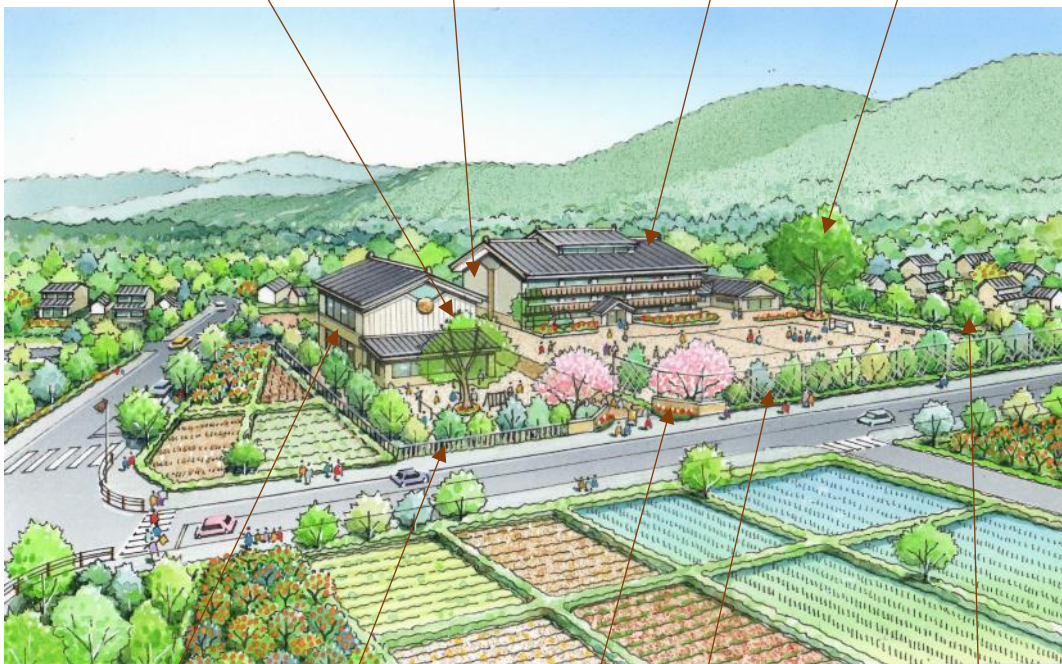
デザイン方針1～3に沿って、具体的なデザインを検討します。デザインのポイントは「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

大きいのびのびと育つ木を植え、長い年月をかけて育むとともに、子供たちの遊びの場に心地よい木陰をつくります。

外壁は彩度を抑えたYR系の色彩とし、一部に木質系の複合材を用いて、周辺の集落や自然に調和させます。

屋根は、背景の山並みや周辺の集落に調和する勾配屋根とし、集落の瓦屋根に調和するグレー色とします。

大きな木は保全し、世代を超えて大切にされる地域の宝として育みます。



大規模な建築物は、外形や意匠、配色等の工夫で分節化を図り、周辺の集落や自然に調和させます。

背の低いフェンスは、周辺の自然に調和するブラウン色とします。

校門のまわりには花壇を設けるなど、子供たちを心地よく迎える空間をつくります。また、桜の木などの花木を植え、思い出の場となる空間をつくります。

背の高い防球ネットは、背景の山並みや敷地周囲の木々に調和するブラウン色とします。

敷地周囲は、既存の木々つながりをもちながら、季節を感じる植栽をし、緑に包まれた環境を創出します。

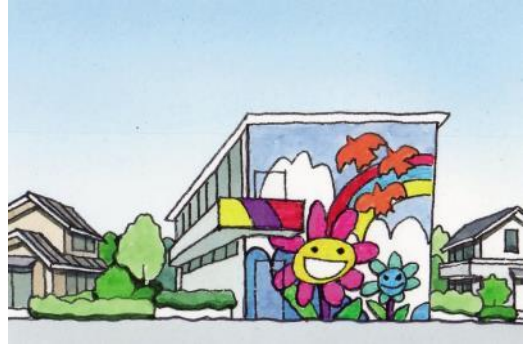
◆ NG 例

■ 奇抜な外観デザインとした公共建築物の例



公共建築は、景観づくりを先導する役割をもっています。周辺と異なる奇抜なデザインや具象的な表現は避け、地域の特性に調和した、質の高いデザインとしましょう。

■ 公共建築物に稚拙な絵を描いた例



絵は、まち並みのなかで目を引く存在となり、景観の秩序を損ねてしまうことが多い存在です。周辺環境や建物本体との調和、経年劣化など考え、安易に描かないようにしましょう。

◆ 景観の魅力アップの工夫

■ 10YR~2.5Y で調和を生み出す



外観の基調色は、自然環境や都市環境に調和する 10YR~2.5Y を中心に選びましょう。周辺景観との調和が高まり、緑が映える美しいまちが育まれるでしょう。

■ アクセントで全体を引き立てる



外観に小さな差し色を添えたり、建物周りに印象的な木を植えたりすることで、建物の魅力がぐっと増すでしょう。

■ 外構を丁寧にデザインする



建物にあわせて外構のデザインも丁寧に行いましょう。施設全体の魅力が増し、市民に親しまれ、大切にされる存在になるでしょう。

■ 郊外では緑の囲いをわすれない



里山や田園のエリアでは、緑が家々を包み込んでおり、落ち着いた景観を生み出しています。公共施設でも、敷地まわりの緑化を忘れず、周辺環境になじませましょう。

■ 施工段階

● 現場での景観配慮の調整

〈色彩について〉

- ・ 外壁の色彩を選定する場合は、現地に大版の色見本を複数並べ、周辺環境との調和を確認した上で決定します。複数の素材や色彩を組み合わせる場合も同様に行います。

〈樹木の配置や向きについて〉

- ・ 植栽を配置する場合は、主な視点場から美しい眺めが得られるよう、配置や向きを調整します。
- ・ 配置や向きは、樹形や枝ぶりを観察した上で、将来の成長や剪定も想定し、丁寧に調整します。

● 工事期間中の配慮

- ・ 工事の仮囲いは、周辺の景観と不調和にならないように色彩等を選択します。
- ・ 工事期間が長期に渡る場合は、仮囲いの緑化など、必要に応じて適切な対応をします。

■ 維持管理段階

● 計画的な維持管理

- ・ 施設保全計画等に基づく計画的な維持管理により、財政負担を軽減しながら建物の長寿命化を図るとともに環境負荷の低減に努めます。

● 設計意図に基づく適切な維持管理

- ・ 外観の改修や塗装を行う場合は、改めて周辺環境を観察し、当初の設計意図も考慮しながら、より望ましい景観デザインを検討します。

